

U.S. Indicators

発表日: 2019年4月1日(月)

米国 19年2月小売売上高は予想外の失速

～1月の上方改定でもモメンタムは悪天候によりマイナス幅を拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 03-5221-5001)

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

			耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
18/02	▲0.1	(+4.5)	+0.2	▲0.5	▲1.4	▲0.3	▲1.7	+0.1	+0.1	▲0.7
18/03	+0.7	(+5.1)	+0.4	+1.1	+1.9	+0.7	+0.5	+0.4	+0.1	+0.0
18/04	+0.3	(+4.8)	+0.4	+0.2	+0.2	+2.7	+0.6	+0.5	+1.5	+0.4
18/05	+1.2	(+6.4)	+1.4	+0.7	+0.6	▲1.8	+0.1	+1.2	+2.9	+2.9
18/06	+0.2	(+6.1)	+0.3	+0.0	▲0.1	+0.3	+0.9	+0.1	▲1.0	+0.6
18/07	+0.6	(+6.6)	+0.8	+0.1	+0.0	+0.5	+0.1	+0.7	+1.6	+0.4
18/08	▲0.1	(+6.4)	+0.1	▲0.4	▲0.7	▲1.1	+0.0	+0.1	▲3.0	+1.6
18/09	▲0.2	(+4.0)	▲0.3	+0.0	▲0.0	+0.5	▲1.2	▲0.1	+0.7	▲1.3
18/10	+1.0	(+4.6)	+0.8	+1.3	+1.6	▲0.9	▲0.0	+1.0	+1.1	+4.2
18/11	▲0.0	(+4.0)	▲0.1	▲0.1	+0.3	▲0.8	▲1.0	+0.1	+0.2	▲4.2
18/12	▲1.6	(+1.6)	▲2.1	+0.1	+0.4	▲1.3	▲1.2	▲2.8	▲1.3	▲5.9
19/01	+0.7	(+2.8)	+1.4	▲0.3	▲1.9	▲0.3	+0.6	+1.4	▲0.6	▲1.2
19/02	▲0.2	(+2.7)	▲0.4	▲0.6	+0.7	▲0.5	▲1.3	▲0.0	▲0.4	+1.0

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

政府機関の一部閉鎖によって公表の遅れていた2月分の小売統計が4月1日に公表された。19年2月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、悪天候によって前月比▲0.2% (前月同+0.7%)と市場予想中央値の同+0.2%に反して減少した(前年同月比では+2.7%から小幅鈍化にとどまった)。12、1月合計で0.5%上方修正されており、ヘッドラインの数字が示すほど小売売上高は悪くないものの、モメンタムはマイナス幅を拡大しているように、小売売上高は一段と弱まっている。

業態別では、自動車・同部品、ガソリンスタンドが増加に転じたほか、飲食店が加速した。一方、家電、建設資材、食品・飲料、百貨店など一般小売、その他小売が減少に転じたうえ、家具が減少幅を拡大した。また、衣料品が減少を続け、薬局、スポーツ用品・本・趣味用品、通信販売が減速した。

2月の小売売上高の前月比(▲0.20%)の寄与度をみると、プラス寄与の業態では、自動車・同部品が+0.14%と最も押し上げた要因となり、通信販売が+0.10%、ガソリンスタンドが+0.08%、薬局が+0.04%、飲食店が+0.01%、スポーツ用品・本・趣味用品が+0.01%と続いた。一方、マイナス寄与の業態では、建設資材が▲0.29%と最大の押し下げ。次いで、食品・飲料が▲0.15%、百貨店を含む一般小売が▲0.03%、その他小売りが▲0.03%、家電が▲0.02%、衣料品が▲0.02%、家具が▲0.01%となった。

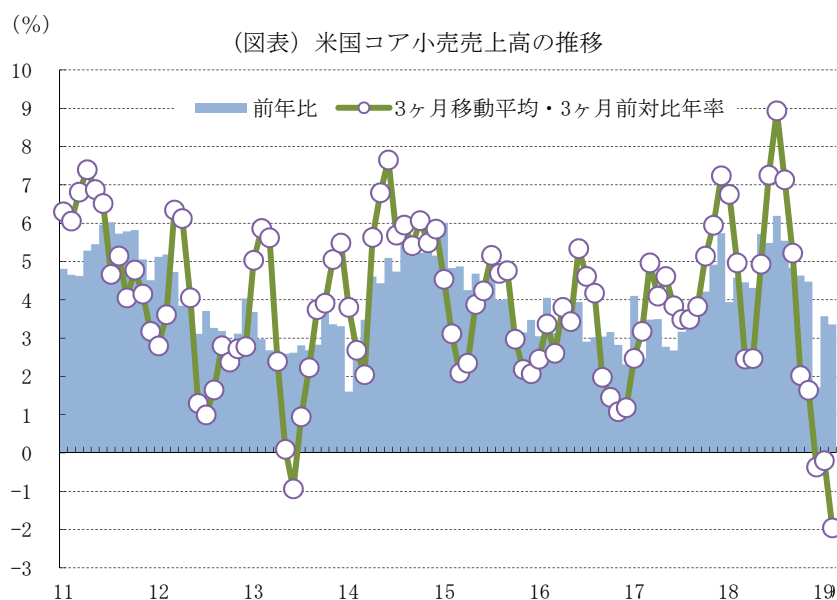
変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、悪天候によって前月比▲0.4% (前月同+1.4%)と市場予想の同+0.3%に反して減少した(12、1月合計で0.5%上方修正)。ガソリンスタンドが増加に転じたほか、飲食店が加速した一方、家電、建設資材、食品・飲料、百貨店など一般小売、その他小売が減少に転じたうえ、家具が減少幅を拡大した。また、衣料品が減少を続け、薬局、スポーツ

用品・本・趣味用品、通信販売が減速した。前年同月比では変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+2.6%と減速した。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比▲0.2%（前月同+1.4%）と減少に転じたが、12、1月合計で0.4%上方修正された。飲食店が加速した一方、家電、食品・飲料、百貨店など一般小売、その他小売が減少に転じたうえ、家具が減少幅を拡大した。また、衣料品が減少を続け、薬局、スポーツ用品・本・趣味用品、通信販売が減速した。前年同月比ではコア小売売上高は+3.4%（前月+3.6%）と小幅の鈍化にとどまった。

コア小売売上高は、政府機関の一部閉鎖や株価の急落による12月の急激な落ち込みや、悪天候による2月の縮小によって、3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率▲2.0%（前月▲0.2%）とマイナス幅を拡大しており、縮小を続けている。ただし、1、2月のコア小売売上高（平均）は、1月の上方修正によって10-12月期比年率+1.0%と10-12月期の前期比年率▲0.4%からプラスに転じている。3月には、悪天候の影響が緩和するほか、全米での雇用・所得の増加傾向、株価の持ち直し、不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの高水準での安定、インフレの落ち着きなどを背景に、コア小売は増加すると見込まれる。

政府機関の一部閉鎖、悪天候などの一時的な要因によって、個人消費は昨年末から1-3月期に減速しているものの、一時的な要因の剥落によって4-6月期に拡大ペースを速めると予想される。



(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。